

## ．平成 16 年度事業報告

平成 16 年度事業は、財政面で大変厳しい運営を余儀なくされました。しかしながら加盟団体、所属団体、会員の皆様方のご協力により無事終了することが出来ました。改めて理事会といたしまして心から感謝申し上げます。

以下「情勢分析」と「反省」「特質」等を踏まえ、報告いたします。

財政面での厳しさは会員の減少と一部事業への参加者減でありました。一般会員が 6000 名台にとどまった事は、ようやく下げ止まり感が出てきたと言えますが予断は許されません。次年度向け、所属団体のご協力を更にお願ひするものです。

各事業は参加者の多少が大きく財政面へ響きます。参加人数に合わせて役員を減らし、対応をしまいいりました。とりわけ準指検定会の受験者数が 200 名を割り込んだ事は、財源確保と合わせ大きな痛手であり、級別テストの実施状況等含め、諸施策が必要と思われまふ。

競技運営では「スノーボードサーキット」が当初予定したスポンサーがつかず、80 万円を超える赤字運営をせざるを得なくなりました。S A J との連携、競技会の特性等々反省を行い、この様なミスが発生しないよう、次年度へ活かして行かなければならないと考えています。

各事業の中でも「クラブ対抗戦」「県総体」「トーエルカップ」「北海道ツアー」「環富士山技術戦」「千葉・神奈川県合同技術戦」等々は参加者も増え、好評の声をたくさん頂いております。更に競技会の内容が充実して行くよう絶えず運営の見直しをしていく事が大切と思われまふ。

H C 活動も 3 年を迎え、活動に充実感が出てきて、頼もしさもあります。H C 委員会を中心とした運営方法はベターと判断しています。今後の課題は「T O T O」に活動資金を求められなくなった今、その財源確保にあります。新たな財源を求める努力が早急の課題であり、それを向けて英知を集めなければならないと考えまふ。事務所経費も節約を行ってきましたが、印刷費の削減等も含め更なる努力を継続していかなければならないと考えています。

その他課題として、厳しい財政難の時はとかくギスギスした運営に成りがちな面がありますので、世相を反映した「さわやかな事業」「ほっとするような」事業展開も必要なのではないかと考えています。更に、個人情報保護法へも組織として取り組む必要性が出てきています。